

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人和歌山大学

1 全体評価

和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、高野・熊野世界文化遺産等豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、地域と融合し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国や地方公共団体と連携してデータサイエンティストの育成やデータ利活用に係る共同研究を実施するとともに、就職・創業支援を目的としたコンテストを開催しアントレプレナー教育を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 国内の大学として初めて観光学部が国連世界観光機関（UNWTO）の観光教育・訓練・研究機関認定（tedQual）を受けたことに伴い、機関からの指摘等を踏まえ改善点を検討し、今後の大学院プログラムにおけるtedQual認定に結びつけるための検討を進めている。また、「観光とSDGs」をテーマとしたセミナーや研究ユニット主催のセミナーなど、研究成果を発信するセミナーを計21回開催し、若手研究者や博士課程学生の研究発表の機会とするなど、研究の活性化を図っている。（ユニット「観光学教育研究水準の国際化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 起業を促す取組

学生の勉学意識と社会的貢献意識の向上、及び就職支援・創業支援を目的として、全学生を対象に「香村賞ビジネスプラン」コンテストを開催している。コンテストでは「ビジネスプラン部門」や「わかやま創生プラン部門」を設定し、実現性や地域性を考慮した審査を実施しており、将来起業を志す学生にとっての「登竜門」となり、起業への意欲へと繋がっている。これらに加えて、平成30年度には試行的に起業者の発掘、孵化、育成等を目的としたアントレプレナー教育を行っており、50名程度の起業希望者が参加している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 文理融合型の数理・データサイエンス教育の推進、高度情報技術人材の育成

総務省統計局、独立行政法人統計センター、和歌山県と連携協定を締結し、初級から上級までのデータサイエンティストの育成や教育開発、データ利活用に関する研究開発を共同で実施している。具体的な取組として、データサイエンスセミナーを共同で開催（学内外から学生、社会人等151名が参加）するとともに、2019年度開講の数理・データサイエンス科目の講師を総務省統計データ利活用センター及び和歌山県から派遣してもらっている。